



各位

平成29年1月31日

会社名 住友精密工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 三木伸一
 (コード番号 6355 東証一部)
 問合せ先 管理部長 松永徹也
 (TEL 06-6489-5816)

営業外費用（為替差損失）及び特別損失（投資有価証券評価損失）の計上並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成29年3月期第3四半期累計期間におきまして、営業外費用（為替差損失）及び特別損失（投資有価証券評価損失）を計上するとともに、最近の業績の動向等を踏まえ、平成28年10月31日に公表の平成29年3月期通期業績予想の修正について、お知らせいたします。

記

1. 営業外費用（為替差損失）の計上

当社は、平成29年3月期第2四半期累計期間（平成28年4月1日～平成28年9月30日）において、為替差損 1,150百万円（個別 439百万円）を営業外費用に計上いたしましたが、その後の為替水準の変動により、平成29年3月期第3四半期会計期間（平成28年10月1日～平成28年12月31日）において、為替差益 756百万円（個別 356百万円）が発生したことから、平成29年3月期第3四半期累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）において、為替差損 394百万円（個別 83百万円）を営業外費用に計上いたしました。

なお、上記平成29年3月期第3四半期累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）の為替差損 394百万円（個別 83百万円）は、当社の外貨建て資産を当第3四半期末時点の為替水準にて算出した期末換算差額を含むものであります。そのため、今後の為替水準の状況により当該為替差損益の額は変動いたします。

2. 特別損失（投資有価証券評価損失）の計上（連結及び個別）

当社は、航空機用熱交換器に使用するアルミ鋳物部品の調達先である台湾Aviocast社（天陽航太科技股份有限公司）を2007年に本田ビジネスシステムズ社と合弁にて設立いたしました。Aviocast社は設立以降、世界的な航空機需要の伸長を背景に業容を拡大してまいりましたが、2014年に稼働を始めた新工場において生産歩留まりの改善が計画通りに進まず、業績の低迷が続いていることから、当社が保有する同社の株式について、投資有価証券評価損として151百万円の特別損失を計上いたしました。

3. 平成29年3月期通期業績予想の修正

(1) 連結業績予想の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり当 期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	49,500	50	△ 1,400	△ 1,200	△ 22.67
今回修正予想(B)	48,000	50	△ 400	△ 750	△ 14.17
増減額(B-A)	△ 1,500	0	1,000	450	
増減率(%)	△ 3.0%	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	51,210	1,306	321	△ 624	△ 11.81

(注) 上記の前年同期値につきましては、平成29年3月期第1四半期連結累計期間において、前連結会計年度に実施した企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、確定後の数値となっております。

(2) 個別業績予想の修正 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	40,000	△ 250	△ 900	△ 600	△ 11.34
今回修正予想 (B)	38,000	△ 250	△ 700	△ 700	△ 13.23
増減額 (B-A)	△ 2,000	0	200	△ 100	
増減率 (%)	△ 5.0%	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	42,189	1,005	552	△ 953	△ 18.01

(3) 修正の理由

(連結業績予想の修正)

売上高は、航空機事業における一部出荷時期の更なる見直し等に加え、熱エネルギー・環境事業における関連市場の投資低迷の影響等により、前回予想を下回る見込みであります。

一方、営業利益については、為替相場が円安に推移したことに加え、経費等の削減により販売減少による影響をカバーし、前回予想を確保する見込みであります。

また、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記1項に記載の第3四半期会計期間における営業外為替差益の発生等により、前回予想を上回る見込みであります。

なお、第4四半期会計期間 (平成29年1月1日～平成29年3月31日) 及び期末の為替レートにつきましては、1米ドル110円、1カナダドル85円 (前回予想の想定 1米ドル100円、1カナダドル80円) を想定しております。

(個別業績予想の修正)

個別業績予想につきましては、連結と同様の理由により、売上高は前回予想を下回る見込みであるものの、営業利益は前回予想を確保し、経常利益は前回予想を上回る見込みであります。

一方、当期純利益につきましては、上記2項に記載の特別損失の計上により、前回予想を下回る見込みであります。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。従いまして、予想に内在する不確定要因により、実際の数値は当該予想とは異なる場合がありますので予めご承知願います。

以 上